

[研究ノート]

音声配信アプリを利用した 遠隔講義の実践

清水 正 博

- 〈目 次〉
1. はじめに
 2. 音声配信アプリの特徴
 3. 実践方法
 4. 受講学生の反応と今後の展望

1. はじめに

2020年4月7日、新型インフルエンザ等対策特別措置法32条1項の規定に基づき、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言が政府から発出され、緊急事態措置を実施すべき区域として、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県及び福岡県の7都府県が緊急事態措置を実施すべき区域とされた。

その後、4月16日に全都道府県において緊急事態措置を実施すべき区域として変更がなされた。

このような状況の中で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年度前期の中央学院大学における講義の実施については、5月7日まで開始を遅らせるとともに、全てオンラインによる遠隔授業となることとなった。

これは、2020年3月24日の文部科学省高等教育局長からの「令和2年度における大学等の授業の開始等について」通知において、今後、学生の学修機会を確保するとともに、感染リスクを低減する観点から、いわゆる面接授業に代えて、遠隔授業を行うことが考えられることが述べられ、このとき、平成13年文部科学省告示第51号（大学設置基準第25条の規定に基づき、大学が履修させることができる授業について定める件）等に従い行う必要があるところ、同告示第2号等の規定に基づき、テレビ会議システム等を利用した同時双方向型の遠隔授業や、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業を自宅等にいる学生に対して行うことが可能であるとされたことによるものである。

遠隔授業の手法は様々であるが、中央学院大学では、学生の通信環境などに最大限配慮し、スマートフォンと筆記用具さえあれば学びが継続できるようにすべきとの考えのもと、Zoom等のシステムの利用が検討されてきた。

このような状況の中、筆者は音声配信アプリを利用した遠隔講義の可能性を探った。本稿では2020年度前期における筆者が担当した中央学院大学法学

部開講科目の会社法と企業取引法の音声配信アプリを利用した遠隔講義の実践の様子について、意図した効果等も含めて述べていきたい。

2. 音声配信アプリの特徴

音声配信メディアは、インターネット上で音声を配信するサービスで、音声データをアップロードし、ポッドキャスト系の様々なアプリで聞くことができるものと、プラットフォーム毎に聞くことができる独立配信系のものに大別される。

前述の通り、5月7日まで講義開始が延期されたことに伴い、筆者は音声配信メディアを利用して講義音声配信をする方法を模索し、配信の受信の通信量の低さから、独立配信系の HAKUNA LIVE という音声配信アプリを利用することにした。

今回利用した音声配信アプリは、基本的にはスマートフォンやタブレットにダウンロードすることで無料で利用が可能であり、音声配信中に音声の配信者、聞き手ともにコメントを入力し、双方の画面に表示させることが可能なものであった。

そのため、このシステムを利用することにより、リアルタイムでの質疑応答等が可能となり、文部科学省が求める水準の同時双方向型の遠隔授業の提供をすることができるのではないかと考えた。

また、今回利用した音声配信アプリは、動画の配信に切り替えることも可能であり、必要に応じて、受講学生側の通信環境等に配慮しながら、動画での情報提供を行うことができる点も優れていると考えた。

加えて、音声配信の聞き手である受講学生側が音声配信に参加することができるゲスト機能というものもあり、文字でのコメントの他に、音声で質疑応答を行える機能がある点も有用だと考えた。

3. 実践方法

まず、受講学生に対し、事前に音声配信アプリを各自のスマートフォンやタブレットにダウンロードさせ、筆者のアカウントをフォローしておくように、ポータルサイトを經由して指示をした。

これにより、筆者が講義配信を開始した際に、自動的に受講学生のスマートフォンに講義配信が開始された旨の通知が表示され、その通知をタップすることによって、講義配信を聞くことができる仕組みである。

また、アカウントをフォローしていなくても、講義配信を開始すると、配信用の URL を入手することができるため、これを CGU ポータルなどで受講学生に知らせることにより、講義配信を聞くことができるようにした。

前述の通り、基本的には受講学生の通信環境に配慮して、受講学生が所持するスマートフォンさえあれば、講義配信を聞くことができ、かつ通信制限等で通信速度が遅くならないように、通信量を低く抑えることができるように配慮した。

また、スマートフォンだけでなく、パソコンからも講義配信を聞くことができ、どちらからでもコメントを入力し、そのコメントや他の受講学生のコメントも同時に画面上に表示され、確認することができることも伝えた。

加えて、文字でコメントを入力することによって、冗長になるなど質問等の意図が伝わりにくい場合、講義配信中に受講学生が音声で質問することも可能となっていることも伝えた。この質問音声はリアルタイムで受講学生が聞くことができるため、筆者との質疑応答をそのまま受講学生に聞かせ、問題点等の共有をすることができる。

4. 受講学生の反応と今後の展望

今年度の会社法受講生230名、企業取引法受講生194名に対するアンケート

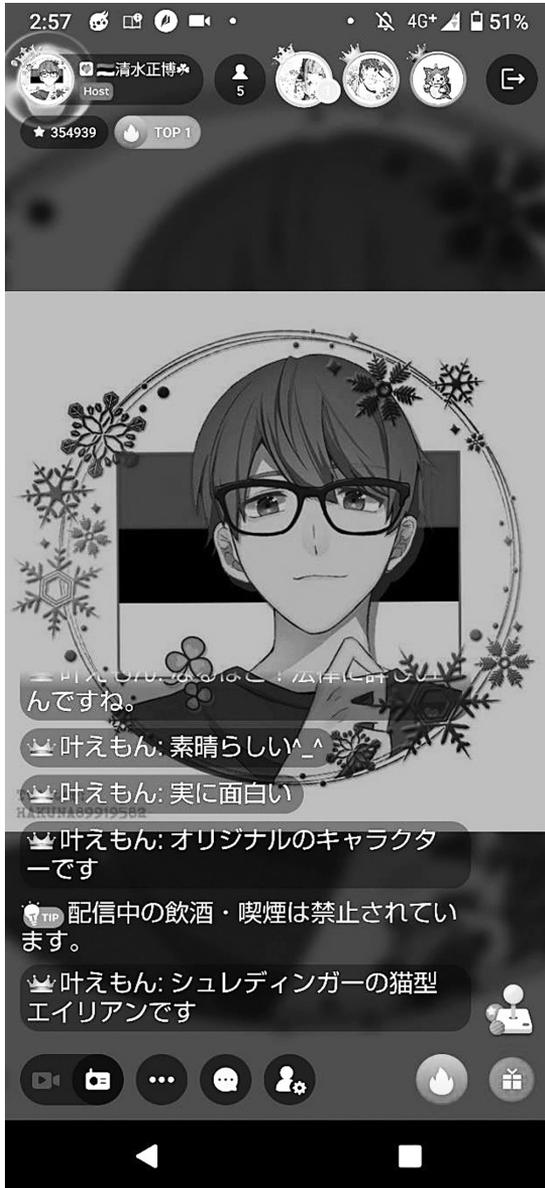


図1 スマートフォンでの音声配信画面の例



図2 コメントの様子

や、音声配信アプリでの受講状況を確認したところ、本取り組みについて、概ね好意的な意見が多かった。

また、下記のような意見もあり、概ね筆者が意図する音声配信アプリを利用した教育効果があがっているといえる。

- ・通常の授業ではできない質問をリアルタイムで質問できるので楽しくやっています。
- ・たまに途切れることもあるが音声だけでも聞きやすいし、わからない所や聞き逃した所をコメントすればもう一度言ってくれるから助かる。普通の

対面授業では、受講生が多くて恥ずかしくて聞けないと思うからすごく便利.

2020年度後期に入り、中央学院大学では Microsoft Teams の利用による同時双方向型の遠隔授業が推奨され、筆者も利用しているが、学籍番号や本名が表示された上でのコメントとなるため、前述の受講学生からの感想のように、恥ずかしさを感じる場合などがあり、匿名でのコメント機能が必要となる場面も想定される.

そのため、Microsoft Teams と併用して音声配信アプリを利用して遠隔授業を行っている.

今後は、受講学生の通信環境等にあわせて選択することができるようにするとともに、完全に匿名でのコメント、質問が可能となる環境を用意することにより、学びの質を高めつつ、新型コロナウイルスの収束を待ちつつ、遠隔授業を提供していきたいと考える.